

道産ホンシメジとムキタケの実用化への取り組み

(有) 福田農園 福田将仁
利用部 微生物グループ 宜寿次盛生

背景

消費ニーズの多様化に伴い、食用きのこも新しい種類、多様な品種が求められています。これまでに林産試験場が開発して、まだ実用化されていない有望な新規きのこのひとつに「ムキタケ」があります。また、昔から「香りマツタケ味シメジ」と言われる「ホンシメジ」の栽培が最近可能になりました。これら「新規きのこ」について、品種開発や栽培技術の改良、モデル事業を活用した実用化への取り組みなどを紹介します。

内容および成果



ホンシメジ

写真：新品種きのこ事業化モデル事業コンソーシアム

ムキタケは、食感が良く、クセがないのでいろいろな料理に合う美味しいきのこです。

林産試では、昭和50年代に栽培技術（原木栽培、菌床栽培）と品種の開発を行いました。



ムキタケ

写真：福田農園

ホンシメジは菌根性きのこで人工栽培は困難でした。平成5年滋賀県で初めて栽培に成功しました。

ホンシメジ栽培技術の改善

民間共同研究 H18-20

- ・栽培条件や培養期間が収量に与える影響を検討しました。

ムキタケの再評価 重点研究 H19-20

- ・野生株を含めた栽培試験

林産試のムキタケは、開発から20年以上経過していますが、安定した栽培が可能でした。

- ・新たに機能性も明らかになりました。

「新品種きのこ事業化モデル事業」 H21-22



写真：新品種きのこ事業化モデル事業コンソーシアム



新たな成果を活用し技術指導



写真：福田農園



写真：福田農園

受託企業「新品種きのこ事業化モデル事業コンソーシアム」での取り組み

- ・実生産施設での栽培試験
- ・試験販売～市場性の調査

道内生産者が使用できる独自品種が必要

寄附金活用研究 H22-24

林産試で新品種開発を継続中

受託企業「福田農園」での取り組み

- ・品種の比較検討，栽培容器の選定など
 - ・実生産施設での栽培試験～市場性の調査
- 平成23年10月～ムキタケの販売開始

今後の展開

林産試験場は、道内のきのこ生産者や企業の方々の独自ブランドづくりに協力していきます。